

# 2023年7月社長会見

1. 営業・輸送概況
2. 京阪神地区の在来線車両への防犯カメラ整備計画
3. JR西日本グループの技術と社会が繋がる「イノベーションプラットフォーム」の開設
4. 社員がいきいきと活躍できる職場・会社づくりに向けて

詳細

## 1. 営業・輸送概況

### 【運輸取扱収入（速報値）】

収入ですが、6月はコロナ前の2019年比で89.3%、7月は7日までの1週間分で89.7%です。

#### 運輸取扱収入（速報値）

	前年同日比			
	収入計	近距離券	中長距離券	定期券
6月	117.9% (89.3%)	113.6% (102.2%)	126.4% (84.1%)	98.9% (94.0%)
7月(7/1~7)	114.7% (89.7%)	115.7% (104.7%)	121.4% (80.4%)	103.3% (100.9%)

※実績は直営の速報値。駅などの取扱高(消費税を含む)を示すものであり、旅行会社での発売分などを除きます。  
※ () 内は、コロナ前の2019年同日比。

### 【新幹線・在来線特急・近畿圏のご利用状況（速報値）】

次に、ご利用状況は、山陽新幹線は、6月が2019年比で87%、7月が7日までで85%。近畿圏は6月が98%、7月が7日までで102%です。

6月から7月初旬にかけては、西日本を中心に発生した大雨の影響により、回復にやや弱さがみられたものの、5月と比較しましても、概ね、同水準にて推移しておるといような状況かと思えます。

この時期は、例年、天候の影響を受けやすい季節でもございます。改めて、自然災害に対するハード面・ソフト面の対策を着実に継続してまいりたいと思えます。

また、7月より「兵庫DC（デスティネーションキャンペーン）」が開始されております。これから、夏休みも控え、国内旅行需要も一段と高まることが想定されます。

当社グループとしましても、国内外の多くのお客様にお楽しみいただけるよう、引き続き、鉄道の安全・安定輸送に努めながら、ご利用の拡大を図っていきたいと考えております。

## 新幹線・在来線特急・近畿圏のご利用状況（速報値）

	前年同日比			
	山陽新幹線	北陸新幹線	在来線特急	近畿圏
6月	130% (87%)	136% (89%)	155% (79%)	107% (98%)
7月(7/1~7)	126% (85%)	127% (85%)	157% (82%)	112% (102%)

※実績は速報値。近畿圏は近距離券発売実績の前年同日比。  
※（）内は、コロナ前の2019年同日比。

## 2. 京阪神地区の在来線車両への防犯カメラ整備計画

### 【具体的な整備計画】

列車内での犯罪抑止効果を向上させることを目的として、2023年度末までの計画を定め、順次、在来線車両への整備を進めてきていただいております。この度、2024年度以降の整備計画についても策定しましたので、整備の方針と現在の状況につきまして、お知らせをさせていただきたいと思っております。

まず、整備対象の考え方についてですが、新しく作ります「新製車両」、「既存の特急車両」については、全車両に整備いたします。また、「京阪神地区の既存の通勤・近郊形車両」については、比較のご利用の少ない短編成中心の線区を除き、すでに導入しております車両も含めまして、全車両に整備してまいります。

次に、整備状況ですが、計画のとおり順調に進捗しております。「京阪神地区の通勤・近郊形車両」については、今年度末約50%の目標に対して、6月末時点で約33%、「新快速と関空・紀州路快速」については、今年度末までに全車両への整備が完了する予定です。

また、在来線の「特急車両」についても、サンダーバードなど、京阪神地区を発着する車両から、順次、整備しており、今年度末約70%の目標に対して、6月末時点の進捗率は約20%です。

次に、2024年度以降の整備計画についてです。「京阪神地区の通勤・近郊形車両」は、2027年度末までに、整備対象としております全ての車両への整備を進めてまいります。

なお、「特急車両」については、2024年度末までに、整備対象としております全ての車両への整備を進めてまいります。

2025年4月には、「大阪・関西万博」の開催が予定されており、国内外から多くのお客様が大阪・関西にいらっしゃる事が想定されます。このため、「大阪環状線323系電車」については、2024年度末までの整備完了を目指すこととしております。より安全・安心な万博アクセス輸送にも貢献していきたいと考えております。

なお、山陽・北陸新幹線については、整備率が現在97%と、ほぼ全ての車両に整備しておりますが、残りの車両についても速やかに整備を進め、2023年度末に全ての車両への整備を完了する予定です。

「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2027」に基づき、鉄道の安全性の維持・向上に向け、着実にハード整備を進めるとともに、お客様に、安全・安心な鉄道サービスを提供できるよう、引き続き取り組んでいきたいと考えております。

## 具体的な整備計画

### ・整備対象の考え方

- ・新製車両については設置する。
- ・既存の特急形については設置する。  
※一部更新予定等の車両を除く
- ・京阪神の既存の通勤・近郊形については、比較のご利用の少ない短編成中心の線区を除き、設置する。

### ・整備対象に対する整備状況と今後の目標

車両形式	6月末整備率	2023年度末目標	2024年度以降の目標
京阪神地区 通勤・近郊形	約33%	約50%	100% (2027年度末)
・新快速(223.225) ・関空・紀州路快速	約79%	100%	-
特急形	約20%	約70%	100% (2024年度末)



## 3. JR 西日本グループの技術と社会が繋がる 「イノベーションプラットフォーム」の開設

### 【JR西日本グループ長期ビジョン2032・中期経営計画2025におけるイノベーション分野の基本方針】

まず当社グループにおきましては、この春、「JR西日本グループ長期ビジョン2032」そして「中期経営計画2025」を策定し、未来社会とその課題を見据え、将来にわたって新たな価値を創造する企業グループに進化していきたいということから、様々なパートナーの皆さまと連携したイノベーションに取り組んでおります。

今年3月に開業しました「大阪駅（うめきたエリア）」では、同駅を「JR WEST LABO」の中心と位置づけ、「イノベーションの実験場」として、多くの新サービスの開発に挑戦しているところでございます。

今後も、来たる「2025年大阪・関西万博」に向け、培ってまいりました様々な技術を、日本のみならず、世界中のお客様に体験いただけるように、様々なパートナーとの価値創造にチャレンジしていきたいと考えております。



当社技術のB to B向け情報発信サイト/共創窓口: **「イノベーションプラットフォーム」**を開設

### 【「イノベーションプラットフォーム」の概要】

本日、当社グループ外の企業様や地域の皆様との共創活動のさらなる加速のため、B to B向けの技術情報発信の機能や、共創活動の窓口機能を有する「イノベーションプラットフォーム」を開設いたしました。

この「イノベーションプラットフォーム」では、これまでの技術開発にて生み出されたソリューションや、商品に関するシーズ、長期ビジョンの実現に必要な当社グループのニーズ、共創活動のご報告など、様々なコンテンツを継続的に発信する予定です。

開設時点では、50件を超える新技術や新製品の情報を掲載しており、今後もコンテンツの拡充を図っていきたいと考えております。また、当社グループからの情報発信に留まるのではなく、例えば、当社のフィールドやアセットを活用した、新たな価値創造にむけた「パートナーの募集」ということも行います。

さらには、当社グループ外の方による「新たな技術やニーズ情報の掲載・発信」も予定しており、双方向のコミュニケーションを実現できればと思っています。鉄道事業者が運営する、このようなWEBサイトは、珍しいのではないかと考えております。

## 【イノベーションにより生み出された技術の体験～AI画像認識ソリューション～】

また、社内のデータサイエンティストが開発した「AI画像認識ソリューション」をお試しいただくこともできます。

このお試しサイトでは、ご利用者ご自身が撮影した映像をアップロードすることで、当社のAIモデルが解析した識別結果を確認することができます。こちらは、近日中の公開を予定しております。

このプラットフォームを当社グループのイノベーション活動の基盤とし、これからも、様々なステークホルダーの皆さまとのつながりを含め、多くの共創活動を行うことで、社会課題の解決につなげていきたいということでございます。そして、持続可能で活力ある未来創りに貢献していきたいと考えております。

## 4. 社員がいきいきと活躍できる職場・会社づくりに向けて

### 【中期経営計画 2025～人的資本経営～】

当社は、自ら変革し成長する人材こそが長期ビジョン実現の原動力と考え、社員の皆さんの成長を支援し、多様性と働きがいを高め、変化対応・創出力のある人材を創出すべく、中期経営計画におきましても「人的資本経営」ということを掲げて取り組みを進めているところです。

具体的な取り組みの一例として、デジタルツールを活用した業務変革、及びオフィス環境の整備についてご紹介させていただきます。

自ら変革し成長する人財こそが長期ビジョン実現の原動力。  
成長を支援し、多様性と働きがいを高め、変化対応・創出力のある人財を創出

長期ビジョンの実現

社員個々の成長、社員個々が持つ力の発揮と結集

グループ全体の人財戦略の推進

- 変化対応・創出力のある人財ポートフォリオを構築 -

人財育成

ダイバーシティ  
&  
インクルージョン

ワークエンゲージメント

### 【Work Smile Project】

まず、業務変革の取り組みについては、デジタルツールを活用しながら、単に道具を変えるのではなく、仕事の仕方や風土、コミュニケーションを変えていく「ワークスマイルプロジェクト」というものを推進しています。全社で1、800名のエバンジェリストが主体となり、役員も参画しながら、意思決定プロセスの簡素化、非効率な業務の見直しなどに取り組んでいるところです。

現時点で、間接部門の約半数が変革を実感しているという結果が出るなど、一定の手ごたえを感じているところです。

### Work Smile Project

#### 01 リアル×デジタルのハイブリッドを掲げ、3つの変革テーマに挑戦中

- ・ コミュニケーションの進化と活性化
- ・ 意思決定プロセスの見直し
- ・ 当然化した無駄の排除

#### 02 エバンジェリスト1800名とともに、経営層も参画して挑戦中

- ・ 自系統の仕事の中身に精通している、デジタルツールを活用した業務変革に意欲的な社員を募り、プロジェクト発足
- ・ 経営層はエバンジェリストの活動のスポンサー（最大の支援者）としてコミット

#### 03 間接部門社員の半数が変革を実感、直接部門でも挑戦中

- ・ 変革を肌で感じる社員は、当初1～2割程度だったが、1年半の活動を通じて、およそ半数まで上昇
- ・ 直接部門でもデジタルツールを活用した業務変革が進行



デジタルツールの導入を契機とした  
業務変革プロジェクト

— 変えたいのは、道具の先にある働き方 —

## 【近畿統括本部新社屋】

また、働きやすいオフィス環境づくりの一例として、近畿統括本部における新社屋の移転に合わせた取り組みをご紹介します。

今年6月の社屋の移転にあたり、系統を越えたコミュニケーションを活発にし、より安全を高める、新しい発想を引き出す、連携や協働を促進する観点から、様々な工夫を行っております。

例えば、社外の方と共同で価値を生み出す「CO-Lab（コラボ）スペース」を設置したほか、執務席とは別に、人と人が出会い、自由に打合せを行える「コミュニケーションスペース」をフロア中央に多く配置しております。

また、円滑な系統間連携を図るために、執務室内の上下階をつなぐ「らせん階段」を整備したほか、執務室にエアロバイクなどの配置もいたしまして、自由で柔軟な発想を得やすい環境を整備しています。

その他、本社でオフィスカジュアルを推進するほか、本社社員有志による、社員自身の目線で働き方を考えるプロジェクトチームというものもスタートしています。

まだまだ改善すべき課題がたくさんございますけれども、社員の皆さんが持つ力を最大限発揮して、いきいきと働くことができる職場・会社づくりに向けて、いろいろ取り組みを進めていきたいと考えております。

### 近畿統括本部新社屋

#### コミュニケーションスペース



#### CO-Labスペース



#### 螺旋階段

